

提出日 2018 年 1 月 6 日

2017 年度 琉球弧研究支援 報告書

研究テーマ「西表島における観光産業と環境との関わり」

氏名：宜保 美南実・當銘 渚・与那覇 綺光

所属学部学科：人文学部こども文化学科

I. 初めに

私たちが20年間過ごしてきた沖縄には、たくさんの離島が存在するが、離島について深く考えることはなかった。ましてや観光地として発展している島ではなく、現在観光地として開発されようとしている西表島のことについては、知識がほとんどない状態だった。しかし、研究をするにあたって自然を守りながらも、発展していこうとする西表島に興味を持ち、今回の研究の対象にすることにした。

II. 研究の目的、動機

近年、西表島では観光産業が発達し、ホテル建設が進められてきた。ホテル建設が自然にもたらす影響を水質調査で調べ、その結果から自然の大切さを実感したい。また、観光産業の発達により、観光客が増加している。そのことから発生する問題を調べ、西表島の自然を守る方法を探りたい。

III. 研究方法、地域、期間

〈研究方法〉現地の自然コーディネーターの方へのインタビュー・コーヒーフィルターを利用した水質調査

〈地域〉竹富町西表島

〈期間〉6月～9月前半（事前学習）9月23～25日（現地調査）

10月～（事後学習）

IV. 結果

まず私たちは、現地の自然コーディネーターである森本さんに話を伺った。そこで見てきたことは、リゾート建設ということで建設の際に地域の住民に対して何の説明もなく、勝手に工事が進められたため、住民は反対したということだ。

またホテル建設にあたり、木などが伐採されて建設されたということで、西表島の

自然を壊しているという意見もあったという。そして私たちは、実際に西表島の海や川、そしてマングローブ林の水質調査を行った。ホテルの近くの海は、ホテルの排水が流れてきているため、汚いということが分かった。それだけでなく、排水は砂浜を通って海に出ていくため、砂がどんどんなくなり、今ではホテルの前だけ砂浜が10メートルほどなくなってしまったということも森本さんの話から分かった。また、集落の排水が流れている場所では、お風呂や台所も生活排水がそのまま流れてくるため、時間帯によってもものすごいにおいがするし、西表島周辺のサンゴの7割以上が死滅していることも、生活排水や海水温の上昇などが原因であり、生活排水もかなり自然に悪影響を及ぼしていることが分かった。

V. 考察、分析

コーヒーフィルター① 浦内川の間

浦内川の上流にぼットン式トイレがあるがあまり使われていないときいていたためそこまでコーヒーフィルターに汚れはつかないと考えていた。しかし想像以上にコーヒーフィルターが汚れたため、近くにある畑の排水からの影響が大きいのではないかと考えた。

コーヒーフィルター② ホテル前の浜

コーヒーフィルターについた汚れはないように感じたが、それは砂によって目に見える汚れは浄化されたと考える。しかし目に見えない汚れや菌が浄化されたとは考えにくい。

コーヒーフィルター③ トウドマリ川

2つの集落から生活排水が流れてきているため、採取した水が黄ばんでいた。そこからコーヒーフィルターの汚れもひどくなるかと考えたが、実際はそこまでひどくはなかった。その原因として、汚れの元が生活排水であったためコーヒーフィルターをすり抜けてしまったと考える。

コーヒーフィルター④ 耳切り浜

生活排水が流れていると聞いていたが、見た目もコーヒーフィルターも汚れていなかった。それは、近くに集落がないため、生活排水が流れていてもそこに到達するまでに分散されているからなのではないかと考える。

コーヒーフィルター⑤ 星砂の浜

そこに設置されているトイレやシャワーの水がそのまま流れていると聞いていたが、そこまで汚くないように感じた。しかし、私たちが採取した時間に観光客が少なかつ

たのが影響しているのではないかと考える。

コーヒーフィルター⑥ 上原港

ゴミが落ちていたりと見た目も汚く、コーヒーフィルターを通して汚れていることがわかったが、港ということで船の油などの影響が大きいのではないかと考える。

VI. 今後の展望

今回の西表島での研究で私たちが事前学習で見つけることができなかった情報がたくさんあり、現地やそこに住んでいる方々からしか得ることができない情報がたくさん学べた。また、その中で、観光企業がうまくいかなかった原因を見つけることができた。それは森本さんがおっしゃっていた、人間も自然界と同じでお互いがお互いを支え合うことができていなかったからだと思った。

もしも、観光企業がその土地のことをよく調べ熟知し、かつ地元民を第一に考え、許可をしっかりと得ることができていれば、このような問題は起こらずにいたのではないのかと考える。しかし、この解決法は私たちにはどうすることもできない。

私たちができることは、観光客としてお邪魔するときにマナーをしっかり守り、使ったところやものは使う前よりもキレイにするという精神が必要である。当たり前のことだが、観光に夢中になり、つい軽視しがちになってしまうことでためそのような意識が大切だと考える。

VII. 終わりに

琉球弧研究に参加させていただいて、普段興味はあっても、深く知ることができないことを私たち自らが研究して、その研究で知ったことや得たことをどのように活かしていくのかを考えることができた。

一人ひとり自分の生まれ育った地域の暮らし方があるように、そこにはその人々の元々の暮らしがある。これを崩壊するような環境産業は発達した観光産業とはいえないと感じた。お互い助け合って協力し合う関係になれるように努力しなければいけない、私たちも小さなことから少しずつ実践していきたい。

今回の西表島における観光産業と環境との関わりの研究で携わってくれた方々に感謝申し上げます。

VIII. 参考文献、調査協力

〈参考文献〉八重山新聞

〈調査協力〉森本孝房（自然コーディネーター） 真謝永二（資料提供）

IX. 指導教員コメント

コーヒーフィルターを使って生活排水の汚染度を確かめたところは評価できる。できれば、もう一つ進んで生活排水の化学物質による酸性度などにも着目できればさらに良かったと思われる。